

## T07a SDSS 銀河及びクエーサーから探るダスト吸収の空間分布

矢幡 和浩、米原 厚憲、須藤 靖 (東大理)

我々の銀河によるダスト吸収はあらゆる天文学的観測に重要な影響を及ぼす最も基本的なデータである。現在広く利用されている銀河吸収のマップは Schlegel, Finkbeiner & Davis(1998:SFD) によるものである。SFD による吸収量はダストの放射量から推測された値である。したがって、仮に光学的に厚い領域やダストが局所的に加熱されている領域などが存在すれば、観測的に重要となる真の吸収量との間に系統的な誤差が生じている可能性がある。

現在我々は SDSS(Sloan Digital Sky Survey) によって得られた銀河の光度分布を用いて上述の系統誤差の有無を定量的に明らかにしようと試みている。銀河の光度分布はダスト吸収を受けなければ方向による依存性を持たないはずである。実際に観測される光度分布はその方向のダスト吸収量に応じて全体的に減光したものであるから、その減光量から SFD とは独立にダスト吸収量を推定できる。我々はこの方法によって得られた吸収量と SFD による吸収量との比較を行っている。さらにこの方法をクエーサーの光度分布に適用する事で、我々の銀河系外ダスト量に関する制限を求める予定である。また既に知られているいくつかの銀河団に対して銀河団内ダストの有無も検証する予定である。本講演ではこれらの結果を報告する。